

肺がん検診

肺がんは、喫煙者に多く発生することが知られています。喫煙指数が高い方や、他人が吸うたばこの煙を吸ってしまう事（受動喫煙）が多い方は定期的に肺がん検診を受けましょう。

受診券は40歳以上の方で成人健康診査を希望された方、全員にお送りしています。

○対象者は？

40歳以上の方（喫煙指数600以上の方※喫煙指数（BI：Brinkmann Index）

[1日の喫煙本数×喫煙年数]

例：20本×30年＝600

（または医師が必要と認める方：受動喫煙の機会が多い方など）

○検査方法は？

胸部エックス線検査・喀痰検査（痰を採取して顕微鏡で調べる検査）

○肺ってどんな臓器？

肺は胸部の右と左に分かれて存在する臓器で、口から吸った空気（酸素）を、肺の中の血管でガス交換し、血液中の酸素濃度をあげて心臓に送り出す働きをします。

○肺がんの症状は？

肺がんには、咳（せき）や痰（たん）といった特徴的な症状があるがん、特徴的な症状がないがんの2種類があります。肺の中には痛みを感じる器官がなく、肺を包む膜（胸膜）にのみ痛みを感じる器官があるため、肺がんで痛みを感じることは相当進んでからでないと起こりません。

そのため、肺がんを調べるためには「胸部エックス線検査」でがんの陰影を捉え、「かく痰検査」でがん細胞の有無を調べるのが有効です。

○アスベストによる健康被害について

アスベストは天然に存在する鉱物繊維（石から作った繊維）で、石綿（いしわた、せきめん）とも呼ばれています。

耐熱性・耐薬品性・絶縁性などに優れているため、1960年代頃から建築資材・電気製品・自動車・家庭用品などに広く用いられてきました。

しかし、アスベストの健康に対する危険性が指摘され、1995年以降、アスベスト製品の製造・使用が中止され、それ以降の新しい建築資材としては使われていません。

空気中に飛散したアスベストの粉を吸いこむとによって、肺がんや悪性胸膜中皮腫を引き起こすことがあります。

アスベストを長期間（10年以上）吸いこんだ人に多く、吸いこんでから15～40年と長い時間が経ってから発症することが特徴です。

なお、アスベストによる健康被害は喫煙により悪化します。心配な方は、肺がん検診を受診してください。